

常盤塾

日時：2015年1月10日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBF ハウス

文責：常盤塾ライター 福井悠太

（1）常盤先生の話

●常盤さん

常盤塾は精神的に若返らないといけない

そうしないと今後の未来もない

来る前に勉強することが必要

仲良しクラブではダメ

それぞれの人が福袋のようでありたいというのが常盤塾のスタンス

開けるまでわからない魅力、期待を持っているというのがいい

全員参加がよい

意味のある10年目にしていく、それが節目である

入れ替えて新しい風を入れる必要もあるので、この人こそはという人がいればどんどん勧誘してほしい

出井さんが欠席しても、自分なりに「質」と「価値」を事前に考えてメールで送ってくれた
こういうのが必要

「質」「価値」とは何か？

とっさに答えるのは難しい

答えられても、10人いると10人違う答えになる

しかし、その多様な中から少数の共通点を導き出す

「質」「価値」を否定する人はいない、わからないけど感じるができるもの

では「質」をどうして主張していくのか

あるものの質は数字で表さないとわからない

これが一つの議論のきっかけになると思う

値付けというのは企業の行動のなかで一番重要

「価値」「値段」「質」は一緒に考えないといけない

値付けはコストや人件費で決めるものではない

なぜならそこには人が入っていないから

水墨画のようなイメージ

白黒、陰陽があるが、中庸を見極める

今はポストモダンと言われるが、モダンというだけの時代を超えて生き方に対する価値観を作り出さないといけない

今は相対主義の時代

いろいろあっていい、そこに価値がある

そして「質」「価値」の考え方が重要になってくる

今はアナログからデジタルへの変換が進んでいる

デジタル化は「質」と深く関わっている

量としては増えるが、果たして質はどうだろうか？

デジタル化は質を劣化させる方向に進む危険性がある

便利になればいいのか

大橋先生は人間の耳に聞こえる音域の所に音楽の本質、肌で感じるものがある

CDなどは人間の可聴域以外をカットしている

可聴域以外でも人間は体で感じている

デジタル化ばかりを追求していると人間が音を楽しむということを忘れてしまうのではないか

カメラについても、今はフィルムからデジタルに変わってしまった

2002年には逆転して 2007年にはフィルムがなくなった

フィルムには写真を撮る喜びがあった

人間の感覚がお粗末なものになっていっている

フィルムの時代には被写体のもつ感性を感じることができた

昔は一枚の写真は価値ある記録であったが、今ではパシャパシャ撮ってしまいがち

そういう視点でものを見ていると、もとを見る視点が劣化していくのではないか

「質」の劣化がデジタル化で起きていないか

何事も0か1かで判断するのは味気ない、中庸に目をむけていかないといけない

富士フィルムのインスタントカメラのチェキというが人気になっている

デジタルカメラの方が便利だが、一枚一枚を大事にする方がいいと思うこともある

先行者利益がある代わりに残存者利益というものもある

チェキもこの残存者利益を得ている

一枚の写真の大切さを感じている若者も増えてきている

ものづくりの心塾

レベルが高いいろんな会社の人々が集まって議論している

勉強していかないとダメ

人間を評価するときに三つの視点がある

エッフェル型、ピラミッド型、火山型

ただ高いだけでなく、何か（マグマのような）奥に持っていると思わせる火山型がいい

質というのが最後は人の役に立つものでないといけないという議論をした

このような議論をしないといけない

そのために冒頭で塾の方針についてお話をさせていただいた

ものに対する愛着心というものを生み出していくのは自分自身だ

お父さんが買ってくれたグローブを大切に使っているうちに、グローブへの愛着が湧いてきた

「価値」を考えるとときにオンリーワンを考えないといけない

オンリーワンであることは自分で作り出すもの

作り手の思いと使い手の思いが交わることで「価値」が生まれてくる

ものを大切にすることが、人生を豊かにしていく

「質」というのは作り手と使い手が共同で作りに出していくもの

目に見えないが感じることはできる

オラウータン型でぶらんぶらん行ったり来たりしているうちに醸成されていく

「質」は社会や時代とともに変わっていく

魯迅の「希望とはもともとあるものでもないものでもない」

地上における道のようなもので、そこを歩くうちにそこが道になっていく

「質」についても同じで、多くの人が「質」を感じる事でそれが「質」を持って行く

辞書で「質」について調べてみた

上の二つの斧が同じ重さだということ、下の貝はお金についてだということ

質は価格で表すというのは大事

(2) 「質」と「価値」について

●丸山さん

自分の調べてきたものと若干違う

ふた振りの斧と鼎

「質」とは約束すること

ブランドと一緒に

質は契約のもととなるもの

●大下さん

質はクオリティ、量のクオンテティに対して表されている

インド哲学ではグナ

「質」とは実態と作用を結びつけるもの

東洋の哲学でも同じで、孔子が同じことを言っていた

東洋哲学で地水火風空は目に見えないものの比喩

ことを表す独特の比喩を用いている

「価値」には三つの性質がある

マルクスは交換について言っていた

質も価値も共通しているものが多い

人徳を持っているかいらないか

●古城さん

資料参照

価値としての質が高いか低いかはせいぜい価格を指標として判断するしかない

質と価格は比例するわけではない

質の定義は無理がある

●松永さん

美術品が何億もするのが認められるのは、マーケットがある

マーケットがあること自体がかなり重要

その中で、人がランキングする

例えば、リサイクル業者はゴミを加工してお金を稼いでいる

マーケットがあることを認識させるが重要

このマーケットで価値がでてくる

●常盤さん

マーケットは価値を提示する場

マーケットがないと価値の議論ができない

●松崎さん

質の方は品質、クオリティー

価値というのは一人一人に関して物差しが変わるもの

京都のヒイラギ屋

ホテルと旅館の違い

旅館はサービスをする人が入ってくる

サービスとは言われたことをやる、ヒイラギ屋がやっていることはホスピタリティー

ヒイラギ屋が目指しているものは
ブランド（印）を作っているのではなく、のれん（信用）を作っている
滝川クリステルのやったことはおもてなしではない
「いいお客さんとは？」という質問に関して
旅館は相手さんを尊重する立場である
ブランドは表向きにアピールするもの、のれんは客が感じる、積み上がっていくもの

●松永さん

サービスはサブする、奴隷からきている
シェムリアップのホテルではフランス系が残る
奴隷なれしている

●昌子さん

質と価値は相互関係がある
質とは心地よさ
価値とはリスク&ベネフィットや自分の愛を加味した心地よさ
価格に基づいた価値というものもある
50万円のハンドバックは心地よいので質はある、コストパフォーマンスが合わないが愛があると価値がある

●大下さん

ブランドもののバックが好きというのはなぜか
心地よさは使い込んで初めて感じる事ができるので違うのではないか

●松永さん

そこを考えてきた
価値には三つの側面がある
所有の価値、使用の価値、共有の価値がある
SHIMANOのグローブを買ってきた
値段と機能がしっかり釣り合っている
ベトナム製なので防水質がすこし弱いけど2500円で納得感がある
価格に納得感がある

●古川さん

自分が選択対象でないと「質」「価値」を考慮することはない
価値は人によって違うし、それに出していい値段も人によって違う

ワインは購入時と消費時の質が違う

不確実性が高いと選択できない

不確実性を回避するため、価値や質を議論、評価するにはある程度の制度が必要

●安梅さん

「質」と「価値」は医療的には明確

人の **well-being** に資するかどうか、生きる喜びに資するかどうか

●古川さん

下のレベルでは比較できるかもしれないが、上のレベルでは評価するのが難しい

同じお酒を飲むにしても

だれとどこで飲むかによって評価が違う

●臼井さん

「質」「価値」は循環が高まった時に高まるのでないか

例としておにぎり

美味しいものは何かときいたところ一番はおにぎり

おにぎりには計れない価値がある

ホテル椿山荘

名前を覚えていてくれるなど、値段では代えられない心地よさがある

ホスピタリティー、感謝、愛などが循環する

●若林さん

価値は他人が判断することで、質を高めていく

●丸山さん

バッグは買うまでのワクワク感やハピネスにお金を払っている

●古川さん

高い車を普通は買わない

しかし、街で認知されているから買う人がいる

制度がないと、それ以上のことは決まらない

●丸山さん

ハピネスの積分は **well-being** にはならないのではないか

ハピネスは瞬間的だが、それは幸せなのか

●松永さん

忘却は意味の振替が起きている

●常盤さん

選択を一つのものさしにするのはいいこと

毎日は選択の連続

●臼井さん

選択という言葉に衝撃を受けた

バックを選ぶ時や車を選ぶ時にはそれぞれ選択の優先順位が違う

●古川さん

職業や結婚、生まれてきたことすらも選択をできなかった

自分でできる選択は殆どないのではないか

●常盤さん

選択の不自由は運命、流れである

人生は選択できない

片平先生が言っている質はサービスに近い

●丸山さん

メルセデスの鉄は他と違うにしても、そこまで気を使える視点がすごい

●常盤さん

片平先生も質を心地よさと言っている

●松崎さん

心地よさや快適さは、ものさしでは計れない

●古川さん

写真がなかったら、ファッションがここまで発展しなかっただろう

どのファッションがいいかはわからないから、社会でファッションリーダーをきめてどれがいいかを決めてもらう

●常盤さん

三角錐の頂点が well-being

下の三角形の頂点は質、価値、こころ

底面がサービス

●古川さん

これまではモノだけだったが、今はサービスまで含めたものになってきている

●松永さん

量の中から、大人になっていく

(3) 次回の本

●松崎さん

「21世紀の資本」をやりたい

30年前に経済学で学んだことが間違いだったと書いてあり、いろんな見方ができる良い本

●常盤さん

いい加減進むのはいけない

経済学を学んできた人は殆どいないので、深く入れない

●丸山さん

こんなに分厚いのにベストセラーになっているのはやはり面白いから

レクチャーをしながら読むのはいい

●常盤さん

これは読むのが難しい

もう一度検討するのもあり

今田さんに読んでまとめていただく、2回くらいで

ここだけみといてくれよという点があれば、それは受け入れたい

「モチベーション 3.0」は嫌だな

●丸山さん

あゆみは出してもらえないと始まらないので出していただく

要提出と未提出は出していただきたい

●常盤さん

人を呼んできてお話ししていただく

手嶋勲矢さん、言葉は神から生まれてきたとおっしゃっている

佐藤亮平先生、北里大学の医学部

陰陽五行を詳しく研究されている